

## 【ESD学習支援活動】

### 奈良市立佐保川小学校 野外活動 支援報告書

英語教育専修 学部4回生 谷垣徹

1. 実施日 平成29年11月1日(水)～2日(木)
2. 場所 奈良市青少年野外活動センター
3. 参加者 英語教育専修 学部4回生 谷垣徹  
英語教育専修 学部4回生 森本珠美怜  
数学教育専修 学部4回生 杉田岳史  
社会科教育専修 学部1回生 仲村幸奈  
教職大学院 大学院1回生 谷内裕也  
奈良市立佐保川小学校 第5学年児童 56名  
(男子29名、女子27名)  
奈良市立佐保川小学校 引率教員6名他



学生による新企画！ネイチャーゲーム

#### 4. 活動支援内容

平成29年11月1日(水)～2日(木)、奈良市青少年野外活動センターにおいて、奈良市立佐保川小学校第5学年の野外活動が行われ、本学学生5名がその支援に当たった。1泊2日のうちの主に1日目に関わり、オリエンテーリング、ネイチャーゲーム、野外炊飯、キャンプファイヤーなどの活動支援を行った。当日までに事前に数回の事前指導に参加し、キャンプファイヤーでの歌やスタンツの指導を行った。天候に恵まれ、全てのプログラムを予定通り行うことができた。

今回の野外活動支援を通して感じたことを、以下の三つで振り返る。一つ目に「学生による活動支援の意義」、二つ目に「活動支援の幅の広がり」、三つ目に「学生側の学び」についてである。

一つ目は「学生による活動支援の意義」についてである。近頃、学校現場では野外活動の形骸化が問題になっており、毎年企画内容の十分な検討がなされておらず、また野外活動に関する十分なスキルを持った先生方が減っていると耳にする。この支援では、日頃からESDの知識や野外活動のスキルを学んでいる学生が支援を通して先生方と関わり、共に野外活動を創り上げることで、学校側・学生側双方にとって有益なものとなっていると感じている。私たち学生だからこそできる支援の在り方を追求して、今後も関わっていきたいと感じた。

二つ目は「活動支援の幅の広がり」についてである。今まで野外活動では、多くの学校でオリエンテーリング、野外炊飯、キャンプファイヤーの支援を行ってきたが、今回は新たな試みとして「ネイチャーゲーム」の企画をさせていただいた。そこでは、普段の学校生活では出来ない、野外活動ならではの活動を作ることができた。学生にとっては何度も関わることの出来る支援であっても、児童にとっては一生に一度の貴重な経験である。その経験を有意義な学びの場とするために、より充実した活動作りと、そのための関わりを常に意識したいと感じた。

三つ目は「学生側の学び」についてである。今年度は市内10校を超える小学校から支援依頼をいただき、野外活動に関わらせていただいた。私たちの活動に信頼をいただいていることを嬉しく感じるとともに、これらの支援が私たち学生にとって、非常に有意義な経験の場であることを痛感している。年間を通して多くの1回生の学生に関わり、実践を通して多くを学ぶことが出来たと同時に、何度も関わっている上回生も、さらなるスキルアップや教員としての自覚につながっている。

今年度の野外活動支援はこれが最終であった。このような支援の機会をいただけることに感謝し、これからも精一杯日々の活動や支援に取り組み、ESDの学びを実践する場としたい。